

分析計測標準研究部門 第4回シンポジウム

— 極限計測・分析が加速する 研究開発イノベーション —

**参加
無料**

日時: 平成30年 **9**月**7**日 **金** 10:00~15:30

場所: 幕張メッセ国際会議場 国際会議室

主催: 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 分析計測標準研究部門

講演プログラム

10:00	開会	白田 孝	計量標準総合センター長
10:00	分析計測標準研究部門の概要	野中秀彦	分析計測標準研究部門長
10:15	【依頼講演】パワーレーザーとX線自由電子レーザーを用いた極限環境下の物質ダイナミクス観察	尾崎典雅	大阪大学大学院工学研究科准教授
11:00	先端研究を支える超高強度X線パルスレーザーのパワー測定	田中隆宏	放射線標準研究グループ主任研究員
11:30	陽電子を用いる超微細欠陥の評価技術	オローク ブライアン	X線・陽電子計測研究グループ主任研究員
12:00	休憩（昼食）& ポスター発表		
12:45	ポスター発表【コアタイム】 分析計測標準研究部門の研究紹介		
13:15	【依頼講演】単一光子レベルの極微弱光を観測する「光子顕微鏡」の開発	福田大治	物理計測標準研究部門 量子光計測研究グループ長
14:00	量子現象を模倣した光干渉断層イメージング技術の研究	白井智宏	ナノ分光計測研究グループ 上級主任研究員
14:30	超微細表面物性の定量計測	井藤浩志	ナノ顕微計測研究グループ 主任研究員
15:00	超高温域の炭素系材料の物性計測とその結果の分析	岩下哲雄	非破壊計測研究グループ 上級主任研究員
15:30	閉会	野中秀彦	分析計測標準研究部門長

■ 参加申込・お問い合わせ : rima-sympo-ml@aist.go.jp ■

■■ 資料の準備の都合上、事前登録をお願いいたします（当日参加も可能です） ■■

主催：産業技術総合研究所 計量標準総合センター 分析計測標準研究部門

日時：平成30年9月7日（金）10:00～15:30

場所：幕張メッセ国際会議場 国際会議室

講演プログラム

10:00	開会	臼田 孝	計量標準総合センター長
10:00	分析計測標準研究部門の概要	野中秀彦	分析計測標準研究部門長
10:15	【依頼講演】パワーレーザーとX線自由電子レーザーを用いた極限環境下の物質ダイナミクス観察	尾崎典雅	大阪大学大学院工学研究科准教授
11:00	先端研究を支える超高強度X線パルスレーザーの パワー測定	田中隆宏	放射線標準研究グループ主任研究員
11:30	陽電子を用いる超微細欠陥の評価技術	オローク ブライアン	X線・陽電子計測研究グループ主任研究員
12:00	休憩（昼食） & ポスター発表		
12:45	ポスター発表【コアタイム】 部門の研究紹介		
13:15	【依頼講演】単一光子レベルの極微弱光を観測する 「光子顕微鏡」の開発	福田大治	物理計測標準研究部門 量子光計測研究グループ長
14:00	量子現象を模倣した光干渉断層イメージング技術の 研究	白井智宏	ナノ分光計測研究グループ 上級主任研究員
14:30	超微細表面物性の定量計測	井藤浩志	ナノ顕微計測研究グループ 主任研究員
15:00	超高温域の炭素系材料の物性計測とその結果の分析	岩下哲雄	非破壊計測研究グループ 上級主任研究員
15:30	閉会	野中秀彦	分析計測標準研究部門長

ポスター発表（研究部門の最近の成果など）

A 医療・生体安全を支える計測標準技術	医用超音波機器の安全性評価に資する高出力超音波パワー標準開発の必要性	内田 武吉 加藤 昌弘 山口 英俊 増田 明彦 古川 理央 永井 秀和
	水晶体被ばく線量測定に用いる線量当量換算係数の決定と実用	
	アラニン線量計を用いた医療用炭素線の線量測定技術	
	先進医療開発を支える高精度中性子計測技術	
B 製造現場を支える精密計測技術	ラドン放射能モニタ校正のためのガス循環システム	山田 桂輔 佐藤 泰 鈴木 淳 安本 正人 山本 哲也 王 慶華 田中 真人
	レーザー共鳴イオン化による超高感度質量分析法の開発：ストロンチウム同位体分析への適用	
	半無響室の性能評価における音源の指向性の影響	
	厚さ計等工業計測機器に装備される ¹⁴⁷ Pmの放射能絶対測定	
	水晶振動子型水素センサ・濃度計の屋外計測での安定性改善	
	位相コントラスト法を用いたX線検査装置の開発	
C 新材料開発を支える先端計測分析技術	超近接配置欠陥の非破壊による分離判定評価	木野 幸一 満汐 孝治 平 義隆 細貝 拓也 藤原 幸雄 齋藤 直昭
	超微小領域における欠陥分布の可視化技術	
	産業利用を目指した小型電子加速器中性子施設とその利用の研究	
	ナノ空隙評価のための高強度低速陽電子ビーム利用施設	
	高強度レーザーを用いたガンマ線渦の発生	
	二光子-光電子収量分光法(2P-PYS)の開発：機能性材料の励起状態の評価	
	イオン液体を用いた反応性クラスター集束イオンビーム源の開発	
	先端分析計測でナノ材料などの開発を支援	